

学術フォーラムの概要について（事後報告）

1 名称：「地球環境変動と人間活動—地球規模の環境変化にどう対応したらよいか—」

2 日本学術会議以外の共同主催団体等：

- ・主催：日本学術会議
- ・共催：地球惑星科学委員会地球人間圏分科会
- ・後援：日本地球惑星科学連合、地理学連携機構、日本地理学会、日本地形学連合、日本第四紀学会、東京地学協会

3 開催日時：令和3年12月5日（日） 13時00分～17時50分

4 開催場所：オンライン、日本学術会議庁舎から発信

5 開催趣旨：

人新世において自然と人間の関係に変化が生じている。沿岸域での海面上昇の影響、寒冷地域における氷河や永久凍土の融解、気候変動のみならず大規模な森林伐採や過放牧により進行する沙漠化など、陸域と海域の環境の変化は人間社会に大きな影響を及ぼし始めている。人新世における環境変化の本質は、完新世（過去1万年間）の変動史に位置づけることで明確になる。世界各地の地球温暖化の進行とその影響を報告し、地球規模の環境変化とその適応策について多角的に考察する。

6 参加人数：

講演者等：14名

その他の参加者：最大同時視聴者数 240

7 特記事項：

「学術の動向」への特集企画として、気候変動、地球表層環境の変化と人間社会への影響、人間社会の歴史的関係、デルタでの環境変動、東京湾沿岸の環境変化、寒冷地域での永久凍土地域の土壌の変化ならびに熱帯域の遷移などの研究最前線、環境変化影響評価、気候変動への適応と社会のレジリエンス構築などを内容としたものを提案している。12月末の編集委員会において審議予定である。なお、地球人間圏分科会ではこの学術フォーラムでの議論をもとに環境変動と人間活動に関わる研究課題を意思の表出に繋げるための検討課題とする。